

自治体名	静岡県 浜松市
------	---------

女性の健康支援対策の概要

一人ひとりの女性が健康への意識を高めることができるように、その支援方法を構築することを目的に、健康情報の提供媒体による効果を比較し、効率的な啓発方法を明らかにし、その結果を元に効率的な啓発を行い、がん検診受診率向上等女性の健康づくり推進する。

自治体の特徴

本市は、首都圏と関西圏の二つの経済圏のほぼ中間に位置し、面積は静岡県の約2割を占め、気候は温暖である。また本市は、JR浜松駅を中心とした都市的機能や先端技術産業が集積する都市部、都市近郊型農業が盛んな平野部、広大な森林を擁する中山間部、さらには、漁業が営まれる沿岸部までと、全国に類を見ない地域の多様性を有している。

人口構成・(H21.4.1現在)

	総数	男	女
人	792,104	394,090	398,014
割合(%)			

15歳未満	112,575	58,048	54,527
15～64歳	504,735	259,681	245,054
65歳以上	91,046	43,742	47,304
75歳以上	61,287	26,237	35,050
85歳以上	22,461	6,382	16,079

女性に関する健康課題

平成19年度に実施した健康はままつ21中間評価のための市民調査によると、19歳～29歳女性のやせの割合が20%であった。特に20歳代前半のやせは増加傾向にある。また「食育」といった言葉の周知度は高く、意識も高いと推測されるが、食生活の乱れを指摘する声も多かった。

女性特有ではないが、主観的健康感、若年層ほど高く、「生活習慣病予防」といった意識は若年層ほど低い傾向が見られた。

がん検診においては、「乳がん」「子宮がん」といった女性特有のがん検診受診率は、他都市と同様10%前半台と低い。特に年齢が低いほど、受診率も低くなっている。

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	3,995
(2) 中高年期における健康支援事業	1,908
(3) 女性のがん支援事業	(1) に計上
(4) 事業全体	5,187

計

11,090

事業名	ママのためのきれいなカラダづくりセミナー
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談 ■知識の普及 □啓発普及
事業費（千円）	733

事業目的

生活習慣病の予防に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、健康の保持増進に資することを目的とする。予防の観点から考えると、若い世代にこそ健康に関する認識と自覚を高めてほしいが、若年層は健康に対する関心が低く、従来、生活習慣病に関する教室や講演会等でも若年層の参加が少ないのが現状であった。そこで、若年層への啓発や周知方法についても検討を行った。

事業対象

乳幼児を育児中の母親

事業実施体制・展開

庁内事業検討メンバーで、内容検討し実施した。また実施にあたり、事業検討会議においても検討を行った。

1. 周知方法
 - ①広報はままつ ②チラシ（主に母子保健事業利用者へ配布）③情報誌への掲載
 - ④FM ラジオ放送 ⑤路線バス文字放送
2. 従事者 保健師、管理栄養士
3. 定員 30名（申込者85名）→コース数を増やし対応。
4. 教室内容
 - 1コース 2回
 - 1回目：「自分のカラダについて考えてみよう」
 - ・女性ホルモン、乳がん、子宮がん
 - 2回目：「きれいなカラダは、健康から！」
 - ・食生活、運動指導
5. 留意点 教室では、2回ともグループワークで実施。アロマを焚き、リラックスできるよう配慮した。

事業目標・評価項目 及び その結果

参加者へのアンケート調査：（調査に協力が得られた参加者58名）

- ・ 年齢層：35～39歳が86%。30歳代で95%を占めた。
- ・ 教室開催の情報源：「広報はままつ」63%、「チラシ」25%、「情報誌」10%
- ・ 参加動機：「健康に関心があった」36.6%、「外出したい」20.4%
 「きれいにひかれた」19.5%、「託児があったから」17.0%
- ・ 教室内容評価：「自分の生活習慣を振り返ることができた」97.6%
 「今後、生活習慣を改善しようと思った」89.3%

事業の工夫点

- ・対象として、児を通じてではあるが、最も健康へ関心を持つ乳幼児をもつ母親と設定。
- ・若い母親が関心、興味をもってもらえるよう教室名、チラシ内容、周知方法を検討。
- ・対象が育児中の母親のため、託児を行い、参加回数も2回とした。

事業の効果についての評価・考察

- ①若年層への生活習慣病予防の意識啓発対象を「乳幼児を育児中の母親」に設定したことは有効であった。
- ・乳幼児の母親は、自由に外出できないことが多く、自分に時間をかけたいがかけられない現状があり、育児支援という側面からも、教室開催は有効であった。
 - ・「乳幼児を育児中の母親」は児に対する健康意識は高いので、きっかけがあれば、容易に自分の健康や生活習慣に関する意識を高めることができる。(ただし、普段は自身への健康意識は高くない)
- ②対象を明確にしたことで、周知方法やタイトル等実施方法の検討が行いやすく、効果的な方法を実施できた。
- ・「健康」、「生活習慣病」といった言葉は、若年層は敬遠する。(高齢者のイメージ)
 - ・「アロマ」「肌」「きれい」といった美容フレーズが女性には大変有効。

今後の課題

- 母子保健事業との連携
 - ・健康への意識を高め、維持していくには、繰り返しの啓発が必要である。
 - ・赤ちゃん訪問事業、乳幼児健康診査事業等の母子保健事業で、母親自身への健康支援をいきたいと考えている。
- 食生活に対する啓発

ホームページ	
照会先	浜松市健康医療部健康増進課成人グループ TEL053-453-6125

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	3	全女性市民の数から考えると少ないが、有効性は高く女性の健康づくりに寄与したと考える。
②独創性	3	教室内容そのものは、従来と変化なし。
③普遍性	5	多くの地域で実施可能である。
④将来性	5	母子保健事業との連携でより、広く実施できる。
⑤効果度	4	対象を母親にしたことで、健康に対する意識の向上など効果があった。
⑥信頼度	3	参加者アンケートのみ

